

マティアスと月

1.ある一つの幸せな村に、マティアスという名の楽しく健康な男の子が住んでいます。彼はお母さん、お父さん、そして弟のダムイと一緒に教会に行くのが大好きです。

2.マティアスは楽しくて健康な少年ですが、弟のダムイには親切にしないので、しばしば母親に叱られます。

「フッフッフ！」ダムイは叫んだ。

3.「マティアス！また何したの？」お母さんは怒って言いました。

「二度としない！二度としない！」マティアスは大声で泣きながら言いました。

それでもまだ、マティアスはダムイとけんかをしています。マティアスはおもちゃを貸すのが嫌で、ダムイと遊ぶことが本当に嫌でした。

4.ある満月の夜、マティアスは大きな美しい月を見つめ言いました。「月に行けたらいいのに、月では誰も僕を嫌いになんてならない。月よ月、私を連れてって！！」

5.そして瞬く間に…大きな魔法の葉に乗って、マティアスは美しく、明るく、丸い月へと旅立ちます。

「やっほー！」

6.月に着いたとき、マティアスはとても幸せでした。誰も彼を叱る人はいません。そして、おもちゃは独り占めです。

「月よ月！私はとても幸せです！」マティアスは毎晩月と遊び寝てすごします。

7.しかし、時が経ち、暗い夜が来ると、マティアスは一人であるのがとても怖くて仕方ありません。月はいつも明るいと限りません。月も眠るのです。

「ふふふふ」怖いのです。お母さん、お父さん、ダムイ、みながいなくて寂しい、家に帰りたい

い！」マティアスは叫び、目に涙をいっぱい浮かべ、眠りに落ちました。

8.「兄さん、兄さん起きて！遊ぼうよ！」ダムイは言った。

「ダムイ？ママ？パパ？ここは家？夢だったのか？良かった！」マティアスは喜んで言いました。

それ以来、マティアスはおもちゃを独り占めすることなく、弟にも親切にしています。

終わり